

※国土交通省重点施策(平成16年7月)より抜粋

# ユニバーサルデザインの考え方に基づく国土交通政策の構築

## 【背景・課題】

○本格的な高齢社会の到来、少子化の一層の進展、くらしの質的向上に対するニーズの高まり

### <バリアフリー化の現状>

▶旅客施設※の段差解消	39.4%(平成14年度末)	▶建築物※のバリアフリー化の割合	約3割(平成14年度末)
→ <目標値>	70%強(平成19年度)	→ <目標値>	約4割(平成19年度)
	100%(平成22年度)		※床面積2,000㎡以上の特別特定建築物が対象

※1日の利用者数5,000人以上が対象

## ユニバーサルデザインの施策の構築 ～どこでも、誰でも、自由に、使いやすく～

### バリアフリー施策のバージョンアップ

### 政策懇談会の開催

高齢者、障害者、事業者、地方公共団体等関係者と協働して政策を立案

### バリアフリー化支援メニューの拡充

- ・市街地のバリアフリー化事業のための計画と、交通バリアフリー基本構想との連携強化
- ・駅の乗降客用にバリアフリー化を行う隣接の民間建物への直接補助の創設
- ・全国の見本となるバリアフリー重点整備地区の道路に特別支援(3年を限度、全国数カ所)

### 「心のバリアフリー」の実現

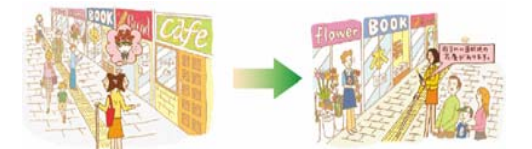
- ・バリアフリーボランティアモデル事業の実施
- ・バリアフリー人材育成プログラムの実施
- ・交通バリアフリー教室の拡充

施設や設備等のバリアフリー化のみならず、全ての人が、自立し、安心して暮らし、持てる能力を最大限に発揮できるまちを目指して、国土交通省の総合的な施策を構築

- ・障害の有無や年齢、経験、言語等にかかわらず活動できる生活環境を整備
- ・公共施設整備におけるユニバーサルデザイン化を進め、連続的に移動の自由が確保されたシームレスな空間を形成
- ・個々の施設や建築物が備えるべきユニバーサルデザインの検討
- ・情報提供や人材育成などの分野における取組みの強化
- ・新しい成果目標の設定(利用者の満足度に関する評価等)

### 自律的移動支援プロジェクトの推進

・ICタグ等IT技術を用いた自律的移動支援システムを検証し、官民が共同して参画できるシステム仕様等を策定



点字ブロックに沿ってきたが目的地が分からない → 目的地の正確な場所や入り口を音声や振動で案内する